

今年は新型コロナウイルスの影響で学校は臨時休校になり、お店は臨時休業せざるをえない状況になりました。このことがきっかけで、私は税金について興味をもちました。

新型コロナウイルスの影響で多くのお店が閉店し、失業する方が増えました。なので、日本政府が国民一人一人に一律十万円を給付することにしたのです。一人一人に十万円ずつ給付しては、いくらあっても足りないだろうと思いました。それに、そんなたくさんのお金は誰が払っているのか。疑問に思い、調べてみました。

税について調べて気づいたことが二つあります。一つは、国民全員が納めていることです。お金持ちの人がたくさん払うのではなく、その人の収入にあった税金を納めているということです。この制度によって誰かが損することなく税金が納められるのです。それは、簡単にいうと社会共通の会費のようなものです。ですが、一つの税だけではみんなが納得のいくものではなかったそうです。そこで、今の日本の税の制度はいろいろな税を組み合わせることによって、より公平に税を集めているそうです。

そして、もう一つ気づいたことは公共サービスは税金でまかなわれているということです。例えば、誰かが倒れました。税金のある社会なら救急車は来てくれます。ですが、税金のない社会なら救急車は来てくれません。そんな社会になったら、大変ですよ。

こうして、私たちの生活が守られているのです。私たちが学校に通えるのも安全に生活できるのも税金のおかげです。そして、信号機が使えることも、税金のおかげなのです。ですが、日本は少子高齢化が著しく進んでいます。少子高齢化が進むことによって、私たちが安心して生活していくために必要な公共サービスの費用が増えていくことと、その費用を負担する働き手が減っていくことが大きな問題となっています。この生活が続くと、年金制度がなくなり、医療費を全額払わないといけなくなります。老後の安定した生活や健康で文化的な社会を実現するためには大きな費用を必要とします。その財源の中心は税金なのです。政府の方からどれだけの公共サービスを受けて、その費用をどのように負担すべきなのか考えることが大切なのではないのでしょうか。

税金を納めることは国の三大義務と言われるぐらい大切なことです。今回、何気ないことがきっかけで深く知ることができました。税金は、日本全体を支える役割があると思いました。これからは、税金について正しく理解して、税金を納めることができる大人を目指していきたいです。